

故武井宏允先生ご逝去にあたり

去る10月21日、武井先生がお亡くなりになりました。享年74歳でした。武井先生は在職中、教頭として学校を預かりながら、本校バスケットボール部を応援してくださいました。退職後も大会のたびに日本全国どこでも奥様と一緒に応援に足を運んでいただきました。いつも応援席前列に座りニコニコと笑顔で応援していただいていたことが思い出されます。もうそのお姿が見られないと思うと残念で仕方ありません。さびしい限りです。

武井先生は昭和19年、中国吉林省（いわゆる満州）にお生まれになりました。戦後苦勞して帰国され、板橋区赤塚第一中学校でバスケットボールを始められました。都立北園高校時代はポイントガードとして活躍され、インターハイではベスト8まで進出されました。早稲田大学在学中に東京成徳高等学校のコーチに就任され、その後教鞭をとるようになられてからも含めると30年にわたって監督としてチームを強化し、東京成徳を日本有数の強豪校にしました。その間、インターハイ優勝3回、国体優勝3回、選抜（現ウィンターカップ）優勝3回と輝かしい成績を残し、さらに日本のナショナルジュニアチーム（現U-18）創設期の監督としてもアジア選手権大会に6回出場し、3位4回、準優勝1回の好成績を収めるなど、日本バスケットボール界にも多くの功績を残されました。その後は学校の要職につかれて現場は離れましたが、後任で教え子でもある下坂先生をバックアップし、再びインターハイ、国体と優勝を成し遂げました。

武井先生は誰にでも分け隔てなく、その行動には私利私欲は見られず、そして裏表ない気さくなお人柄は多くの方々に慕われていました。どんなに弱いチームが来ても、指導を始めたばかりの人にも丁寧に、真剣に対応されていました。私がまだ指導者としては駆け出しのころ、手ほどきをしていただいたのも武井先生です。私が東京成徳中学校に奉職して5年目に全国大会に出場したときは、都大会、関東大会、そして全国大会と、一緒にベンチに入っていたいただき、ベンチワークの妙を見せていただきました。後にも先にも一緒にベンチに入っていたいただいたのはこの時だけですが、今でも鮮明に思い出されます。指示の的確性、流れの予見性、審判への対応、どれをとっても「ああこれが一流というのだ」と感銘を受けました。今、私は当時の武井先生の年齢に近づいていますが、あのような見事なベンチワークはできていないどころか、およそ足元にも及んでいないように思えます。本当に偉大な指導者でした。

武井先生を思い出すときに、一番に想うことが「大らか」な「懐の広い」方であったことです。「武井イズム」というものがあるとしたら、受け継ぐものがあるとしたら、「大らかで懐の広いチーム」であることでしょうか。「言うは易し、行うは難し」の心境です…。生前、武井先生は「バスケバカにはなるな」しかし「レクリエーションではない、区別しろ」、「もっとシンプルにやれ」、「ワイワイ言って自分たちでやれ」、「パッと行って、パッと打て」、「サッと走れ」と分かりやすい言葉で我々を導いてくれました。「そんなに難しく考えなくていいのだよ」といつもの「笑顔」が返ってきそうです。練習が終わると、「よし、飲みに行くぞ！」と笑って誘っていただいた姿を思い出し、そして、もうお会いできないのだと思うと悲しくなり、そんな日々を繰り返しています。恩返しは「勝つこと！」です。頑張らねば。

監督 遠香周平